

あやし恋



あやし恋



桐壺帝の皇子はすでに弘徽殿の女御に一の宮があつたが
桐壺の更衣との間に美貌から「光る宮」と呼ばれていた。
その輝くような美貌から



まったく！



お母上も
頼りになる
後見人も
いらつしやらないのに

上様の寵愛で
あの宮様は
一の宮様を差し置いて
ときめいていますわ



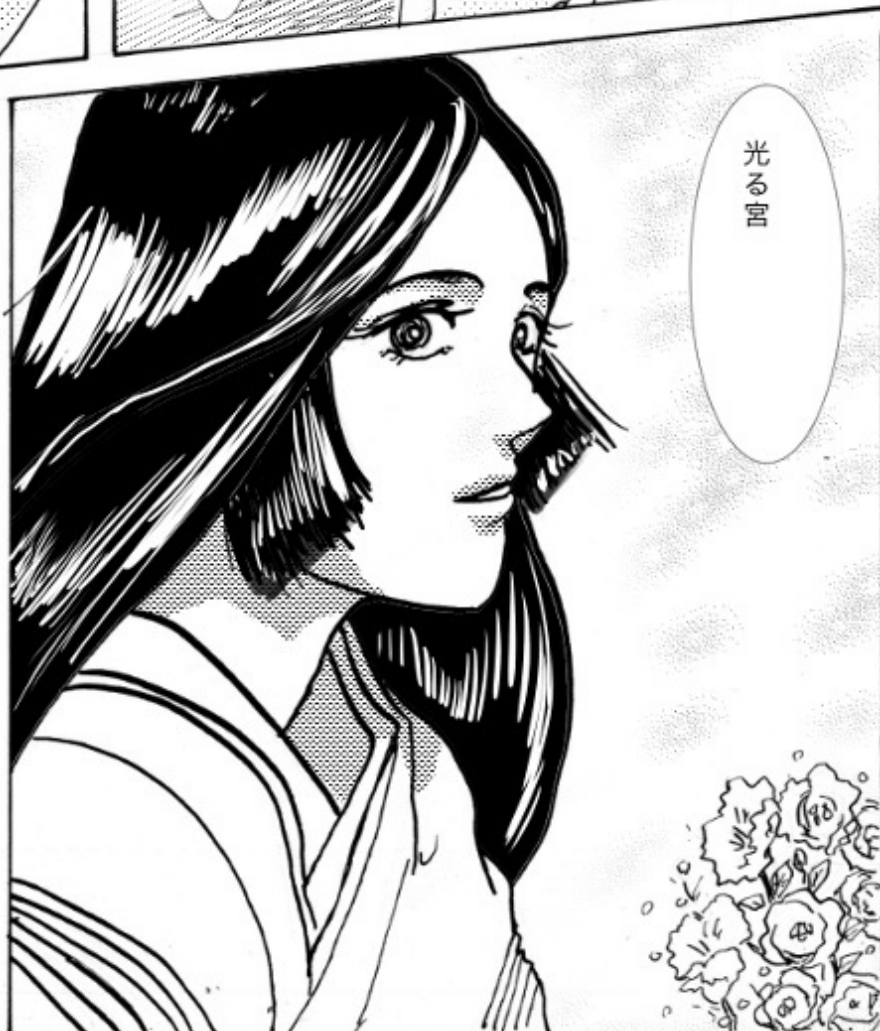
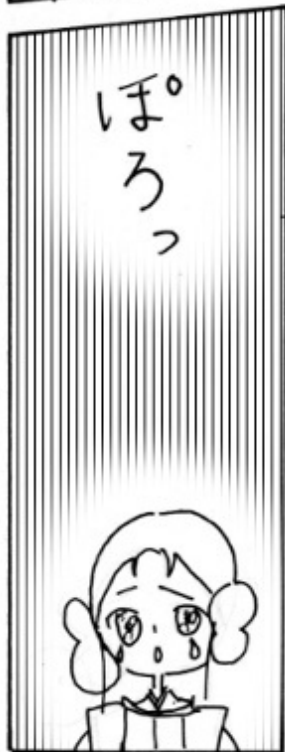
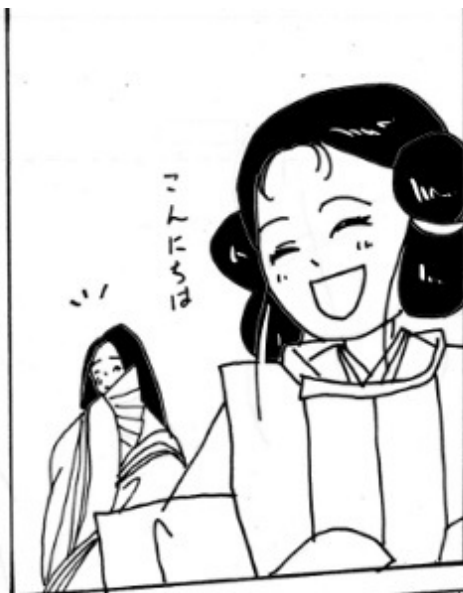
弘徽殿の女御さまも
おいらだちですわ

ぼくの
ことだ…



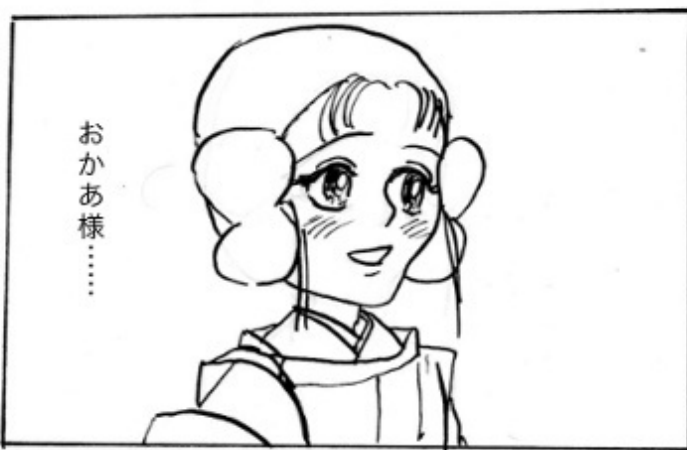
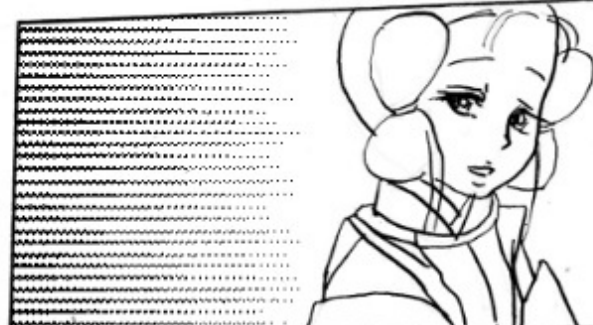
それにあの
更衣に似て
いらつしやる
藤壺様！
大層なご寵愛ぶりでしょう！







光る宮の母 桐壺の更衣は宮を産んですぐに亡くなっている

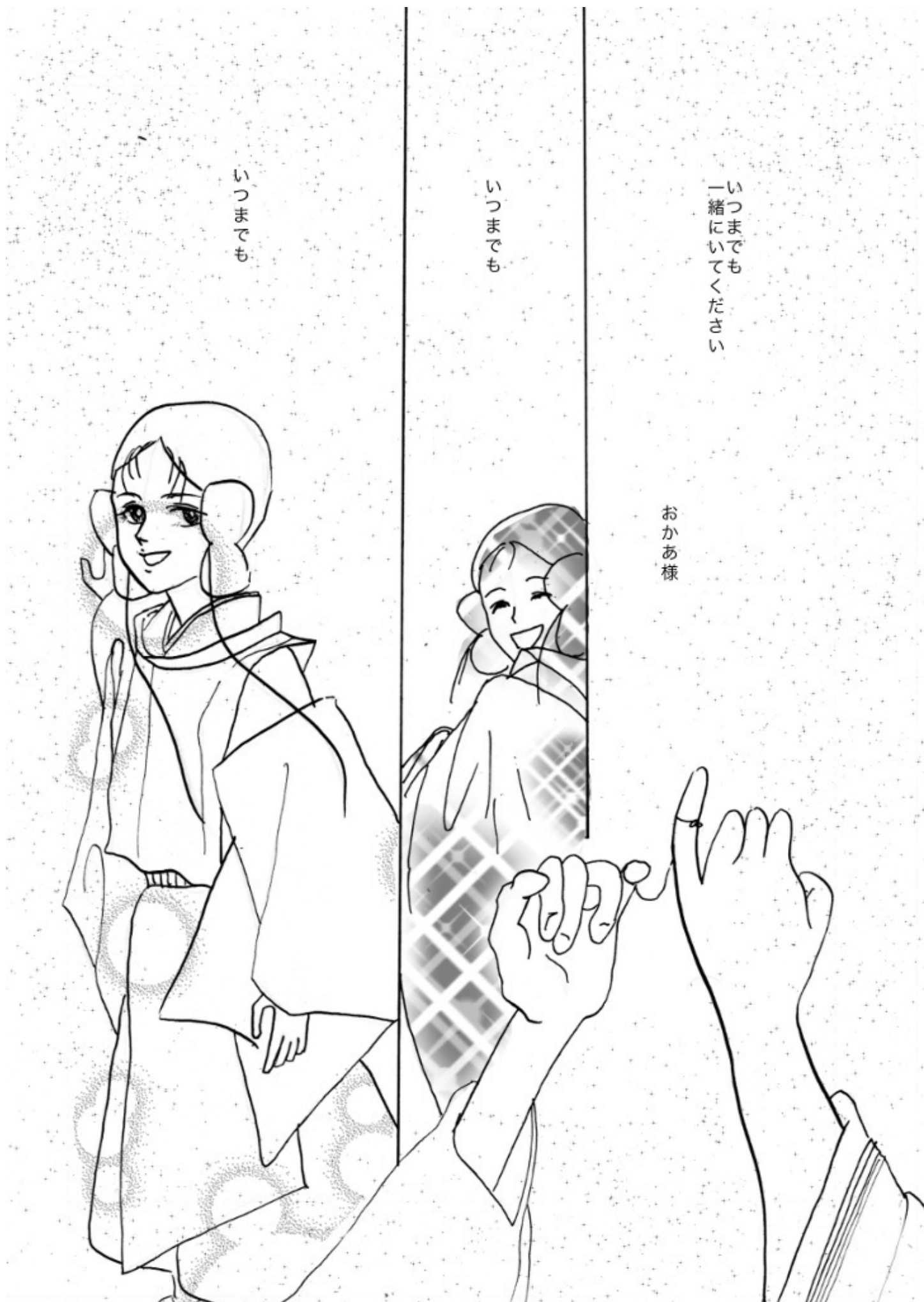


いつまでも
一緒にいてください

おかあ様

いつまでも

いつまでも





えっ
なんで!

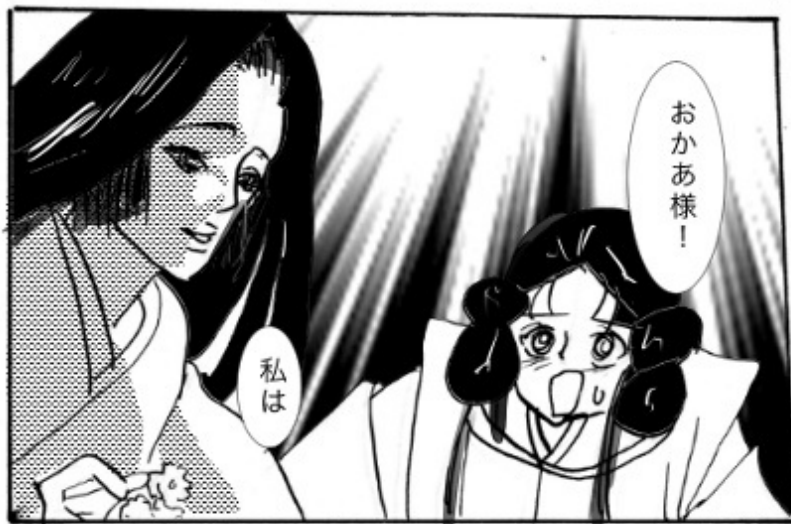
お別れ
ですね



大人の男に
なるのです

私とはもう

お会いできなく
なるのです

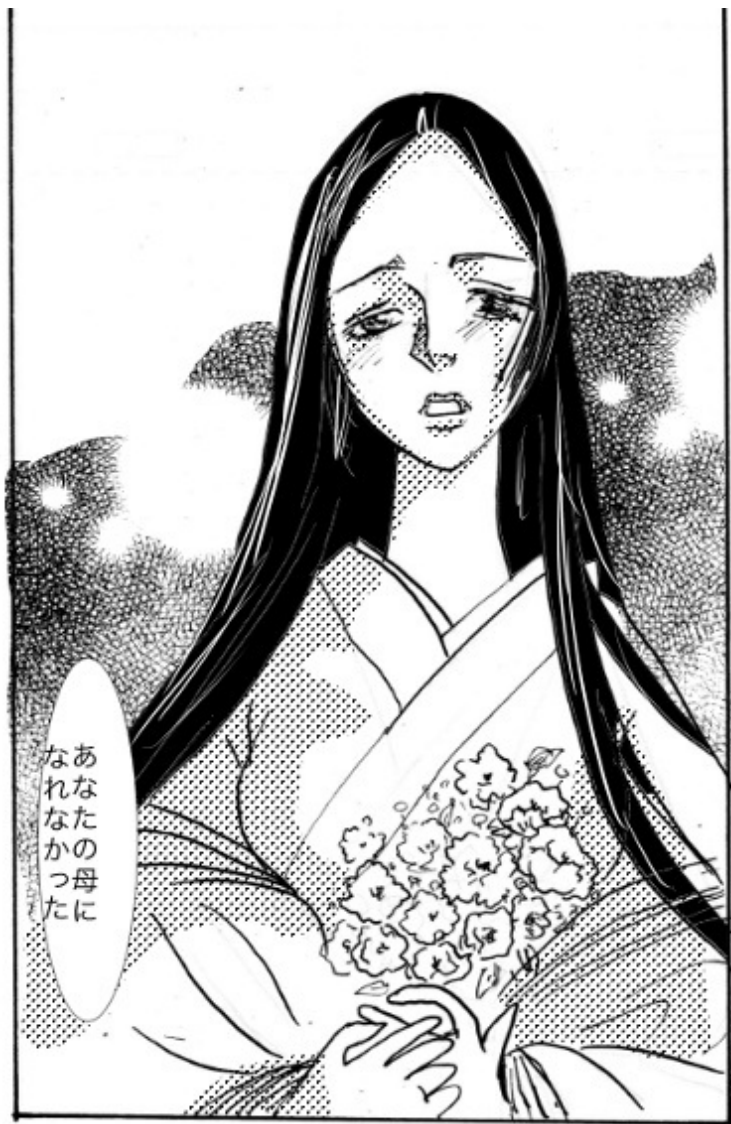


おかあ様!

私は

元服
なさるとか

光る君



藤壺様！

好きなのに！

お直衣を
お着せいたします

御髪を切る時は
手が震えました

元服



これより 宮は源氏を名乗る
人は彼を光源氏と呼ぶようになるのである

そして

光源氏の

苦しい恋がはじまるのです



あやし恋

<http://p.booklog.jp/book/97590>

著者：間々ようこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/mamayouko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97590>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97590>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ